

はじめに

諏訪鉄山の中心地は、古くから金掘場（かねぼりば）と呼ばれています。信玄の軍用道路「上の棒道」近くに位置し、武田信玄（1521—73）が鉄鉱石を採掘し用いたと伝えられています。

諏訪鉄山は諏訪鉱山とも呼ばれ、現在の蓼科中央高原一帯を中心に、蓼科湖から奥蓼科に至るまでに点在する、褐鉄鉱を産出した鉱山の総称です。鉱床は多くの場合表土の直下に、ハケ岳の噴火により流れ出した溶岩を被覆する形で分布し、採掘は露天掘りでした。この鉱床群は沈殿鉱床あるいは沼鉄鉱などと分類され、その生成にはハケ岳の火山活動、温泉や鉱泉などが密接にかかわっています。

昭和12年頃から太平洋戦争を挟み38年頃まで稼動した日本有数の鉄鉱山でした。



採鉱の様子



昭和30年代の横谷峠入口

諏訪鉄山年表

年	月	概要
昭和 4年 (1929)	5月	日本鋼管、試掘契約書を地元と締結（金掘場、長尾根）
昭和11年 (1936)		トラック輸送のため糸萱・金掘場間に石畳の道路が完成
昭和12年 (1937)		日本鋼管株式会社が採掘を開始
昭和13年 (1938)		茅野駅構内に専用線が新設され、トラックから直接積み込が始まる
昭和14年 (1939)		第二次世界大戦始まる
昭和15年 (1940)		アメリカが対日くず鉄輸出禁止
		「鉄鉱生産拡充ニ関スル件」閣議決定
昭和16年 (1941)		太平洋戦争始まる
昭和17年 (1942)		石遊場から花蒔まで4.6kmの索道が完成
昭和19年 (1944)	9月	茅野駅から花蒔まで専用鉄道が敷設される 日本鋼管株式会社・諸会社を合併して日本鋼管鉱業株式会社設立 石遊場から花蒔までの索道第2線が完成 明治から石遊場までの索道2.9km完成
	5月～	無差別爆弾が地方都市において、中央線での輸送が困難となる
昭和20年 (1945)	6月	横浜よりアメリカ・イギリス・オランダ人捕虜242名が鉄山に送られ採鉱作業に従事
	8月15日	終戦 終戦に伴い休山
	9月6日	アメリカ・イギリス・オランダ兵捕虜ら横浜へ帰る 朝鮮人徴用工は帰国
昭和22年 (1947)		鉱山への引き込み鉄道は全面撤去される
昭和23年 (1948)		鉱山再開
昭和27年 (1952)		蓼科湖完成
昭和28年 (1953)		日本の貿易活発化し、鉄山の規模縮小
昭和37年 (1962)		閉山(38年まで)
昭和38年 (1963)	5月	鉄山鉄道跡に蓼科有料道路（現ビーナスライン）竣工。 鉱山跡地の別荘地開始まる



蓼科中央高原観光協会

〒391-0301 長野県茅野市北山5522 TEL.0266-67-4860

諏訪鉄山の歴史保存をすすめる会

〒391-0301 長野県茅野市北山5522
TEL.0266-67-4428 FAX.0266-67-5961



諏訪鉄山散策ガイド

諏訪鉄山は蓼科中央高原一帯に、昭和12年頃から太平洋戦争を挟み38年頃まで褐鉄鉱を産出していった日本有数の鉱山でした。